

第282回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成23年10月24日（月）午前11時より
- 2 開催場所 テレビ新潟放送網本社会議室
- 3 委員総数 8人 出席委員7人

出席委員

豊口 協	委員長	大矢 純一	副委員長
笠井 明	委員	吉原 浩	委員
大久保 千春	委員	田村 明子	委員
尾畑 留美子	委員		

会社側出席者

代表取締役社長	前川 磐
専務取締役（報道・制作・国際担当）	奥野富士郎
専務取締役（営業・事業・編成担当）	永原 良太
編成局長 兼 放送番組審議会事務局長	駒形 正明
報道制作局長 兼 報道部長	稲田 裕之
編成部長	中川 保彦
制作部長	小木 裕介
合評番組プロデューサー	斎藤 将彦
事務局	海津 智洋 紫竹 聡子

4 議 題

1) 番組合評

「夕方ワイド新潟一番 『4000回スペシャル』」

[放送：9月30日（金）15：50～16：57、17：18～17：50]

(説明：番組プロデューサー 斎藤 将彦)

2) 会社報告

①BPO 放送倫理検証委員会決定（9月27日）

「テレビ東京『ありえへん∞世界』に関する意見」

(報告：編成局長・番組審議会事務局長 駒形 正明)

②放送番組の種別の諮問 (報告：編成部長 中川 保彦)

③9月の視聴者の意見。 (報告：番組審議会事務局)

④講じた措置、公表など定例の報告等。(報告：番組審議会事務局)

3) その他

5 審議の概要（委員の意見）

会社側から、「夕方ワイド新潟一番」は1995年10月2日に第一回放送をスタートさせ16年を経て17年目に入った番組であること。数えて放送4000回を迎えるにあたり、視聴者に対して感謝の意を伝えられるような、また普段はやれないようなことを番組でやろうと企画したもので、かつての人気コーナーを復活させたり今まで携わってきたキャスターやスタッフに出演してもらって思い出の映像を紹介しながら16年間、4000回の放送を視聴者とともに振り返ってみた番組であることなどを報告した。

- 番組全体を通じて感じたことは、オープニングからスタジオの中の雰囲気伝わってくるような感じになっていて、一般視聴者席もあってスタジオ自体が活気に満ちていた。
- 小幡・増子両元キャスターが社交ダンスにチャレンジしている懐かしいシーンもあり、この番組がいろいろアイデア満載で4000回放送してきたということがわかった。
- 個人的に印象に残っている「駅前かえるコール」のコーナーを振り返る映像では、とても面白く可笑しくて、こういう楽しいコーナーがあるからご家族のみなさんが見るのかなと思った。
- Tシャツプロジェクトはとても面白くて出来上がりもとてもユニークだった。番組スタッフが自ら着れるようなものという注文付きだとわかり、なるほどと思った。
- 普段のこの番組もそうですが、初代キャスターを交えた番組内でのやりとりからは番組スタッフや出演者の人柄が温かいなあという感じが伝わってくる楽しい番組だと思った。
- オリジナルTシャツをデザインする企画では、予想と違ってシンプルでそれでいて凝っている出来上がりになっておもしろかった。
- 「ありがとう新潟」の曲に合わせたプロモーション映像ではアナウンサーひとりひとりが県内の思い出の地を訪ねて新潟の良さを伝えていてとても感動的で良かった。
- 「かえるコール」コーナーは懐かしかったが、アナウンサーが奮闘しているのは分かったが盛り上がりには欠ける感じがして見ていてハラハラしたりして少し残念だった。
- この番組の4000回放送に対する視聴者からのお便りなどの反響が本当に多くて凄いなと思った。

- 番組では暖かいやりとりや、飾らず気取らない身近な話題に繋がっていている地元ならではの双方向コミュニケーションができていた感じがしてとても良かった。
- こういう番組は視聴者との繋がりが本当に大切なんだと改めて感じた。これからもこの視点で番組を続けて行ってほしい。
- 番組はスタートから出演者が元気よく声に張りを出していて意気込みが伝わってきた。スタジオの雰囲気も良かった。
- この番組スタート当初を思い出しつつ久しぶりに 4000 回を見ていたらアットホームで出演者同志が仲が良い感じが伝わってきて、見ていて居心地が良かった。
- 出演者のコメントも視聴者のお便りのメッセージも良い感じで、「夕方ワイド新潟一番」という番組の和気藹々の雰囲気の中に視聴者が仲間に入れてもらっているような安心感があってとても良い番組だなあと感じた。
- アナウンサーではない相沢まきさんが記念の番組に出ているのが久しぶりに見た感じでは少し違和感があったが、最近この番組でよく出ているらしいことがわかった。
- 「新潟一番」は放送局 TeNY の看板番組という以上に TeNY の CI に近いものではないかと思った。
- 16 年間の長寿番組の人気の理由は 3 つあると思った。一つ目は「愛着」。二つ目は「生番組」。三つ目は「双方向性」が挙げられる。視聴者の思い出とともにあり、継続している限り愛着は残るという意味で「かえるコール」コーナーはこの 3 つの要素を活かした代表例と言える。
- 累計で 197 もあるコーナーはコーナー名を字幕だけでも一覧できたらよかった。視聴者から見てもそれぞれ懐かしく思い出

せた人も多かったのではないか。

●番組はテンポ良かったり冗長になったり色々で進んだが、2時間あまりの番組を毎日毎日制作して放送し続けることが容易でないということを感じさせた。正に継続するには力が必要だと思った。

●ドラマの再放送などが多い時間帯にあって地元密着の番組がTeNYで放送されているのは良心的だと思った。

●この番組の歴史と携わるアナウンサーの話を聞いていて、これからはアナウンサーの紹介ももっと突っ込んだ身近な話題まで紹介すると親近感が湧くのではないかと思った。

●番組はとても明るく健康的。会話が明快で分かりやすい。常に笑顔が全体に溢れていて家族的雰囲気がある。企業としての体質がこの番組の映像にも出てきている感じがした。

●「ありがとう新潟」の曲をバックにアナウンサーがそれぞれゆかりのある県内各地を巡るシーンでは地元への感謝の気持ちが伝わってきてとても良かった。

●普段何気ない疑問点や面白そうな事に気が付くと、いつかこれを「新潟一番」の堀さんのところへ質問として出してみようかと思ったりする。TeNYのレギュラー番組にお便りを出してみようかと思うのは、「新潟」と「TeNYの夕方ワイド新潟一番」という番組が頭の中に一緒に「思い」として在って、夕方うちに居てテレビをつけるといつも「新潟一番」があるというのがなんとなく県民の生活の中に浸透しているからなのだと思う。これからも暖かくて皆がハッピーになる番組作りを続けていってほしいと思った。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

9月……123件。

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成23年9月26日)から昨日(平成23年10月23日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

1) 前回、第281回審議会では「夕方ワイド新潟一番『山人夢見平』」を審議いただきました。委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧しました。

8 今回の第282回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。

2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。

3) インターネットのTeNYホームページに議事概要を掲載します。

9 参考事項(委員への配布資料)

- ・9月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・9月の単発番組制作一覧
- ・民間放送新聞(9/23, 10/3, 13号)
- ・BPO報告(No. 102号)
- ・7月、8月、9月番組種別放送時間資料

以上